

国際尚礼会 2025
統合報告書
INTERNATIONAL SHOREI-KAI ANNUAL REPORT



沖縄空手道剛柔流国際尚礼会
Okinawa Karate-do Gōju-ryu International Shōrei-kai

01

巻頭言

昨年春に国際尚礼会として新たに本部を千葉県市川市に創設いたしました。また、組織再編に携わった方々の多大なるご協力により、本会も組織として着実に充実してまいりました。今日に至るまで、本会の基盤作りにご尽力いただいた関係各位の献身的な支えに対し、深く感謝申し上げます。

本会は、古来より伝承されてきた伝統空手の精神を重んじ、渡口政吉先生が我々に託された沖縄空手道剛柔流尚礼館の正統なる技と意思を受け継ぐものであります。これまでに構築された強固な組織体制と、世界規模での連携強化への歩みを原動力として、私たちの活動はこれからさらに活気に満ちた、明るい未来へと発展していくものと確信しております。

今後も、空手道を通じ、次世代を担う青少年には礼儀を第一として技術を指導してまいります。単に身体を鍛えるだけでなく、日々の稽古や大会などの行事を通じて、互いに切磋琢磨し、笑顔と活気にあふれながら人間性を高め合える環境作りに努めてまいります。門下生の誰もが未来へ向かって健やかに挑戦し、共に成長していける輝かしい道場を目指し、本会は一丸となって邁進してまいります。皆様の変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

沖縄空手道剛柔流国際尚礼会

会長 **二階堂 静男**



02

本会の概要と理念体系

沖縄空手道剛柔流国際尚礼会は、剛柔流の開祖・宮城長順氏が逝去した翌年の1954年に、渡口政吉師範が沖縄県コザ市（現・沖縄市）で「空手道沖縄剛柔流研究所 尚礼館」として創設したことを起源としています。

2-1. 基本情報

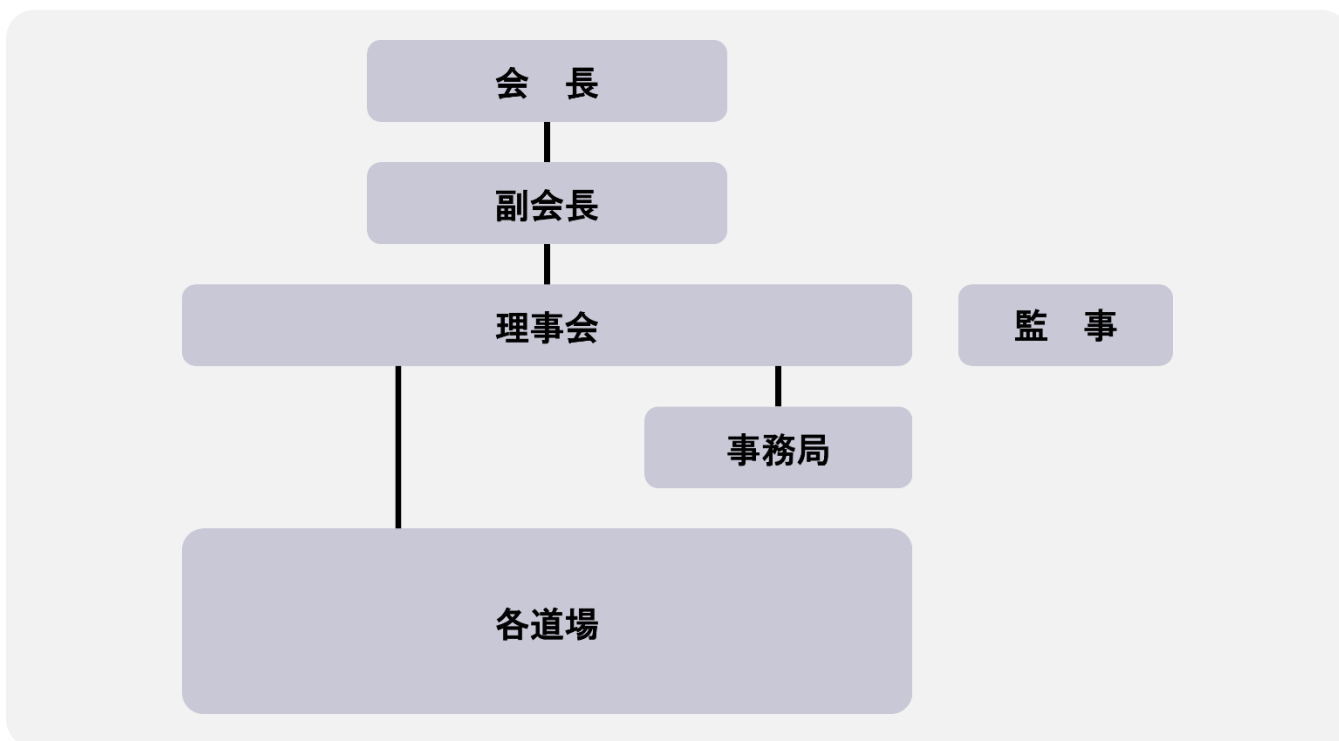
| | |
|-----------|---|
| 名 称（日本語） | 沖縄空手道剛柔流国際尚礼会 |
| 名 称（英語） | Okinawa Karate-do Gōju-ryu International Shōrei-kai |
| 創 設 | 昭和29年（1954年） |
| 設 立 | 令和7年（2025年）7月（※旧尚礼会を継承） |
| 本 部 所 在 地 | 千葉県市川市本北方3丁目19番16号（東部公民館内） |
| 代 表 | 二階堂 静男 |
| 流 派 | 剛柔流 |
| 活 動 拠 点 | 市川本部道場、永福寺道場、有明道場ほか、海外道場多数。 |

(写真・右)
市川本部道場の様子



2-2. 本会の組織機構

本会は、原則として各道場が独立して運営されています。しかし、本会全体として行う事業（大会など）については、理事会を始めとする中央機関において検討を行い、一体となって活動します。



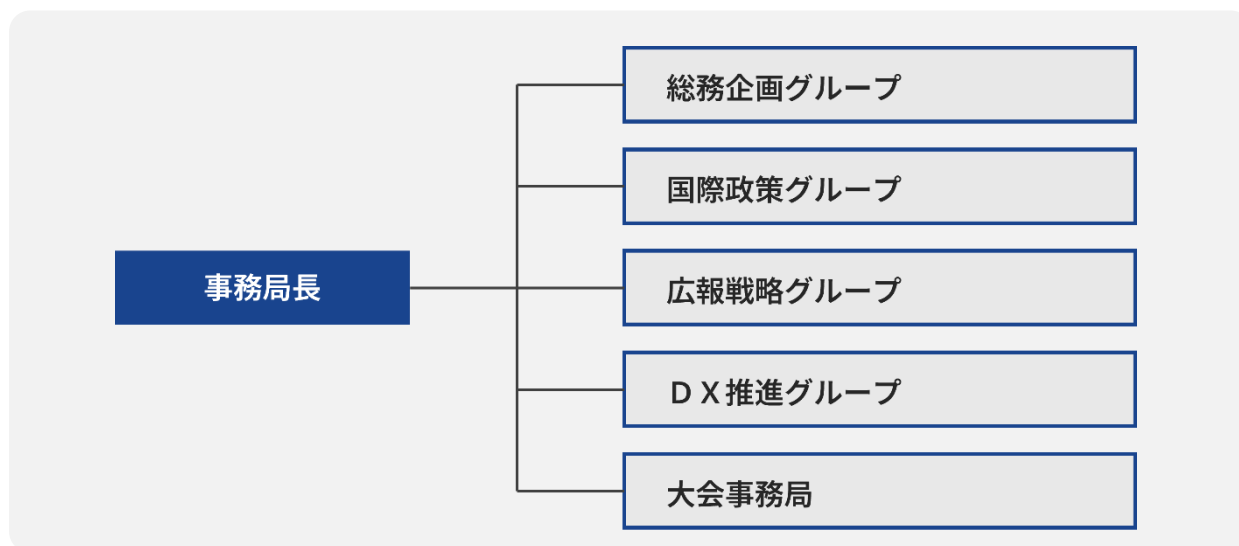
本会の代表は、会長となります。本会規約に基づき、本会を代表し、及び本会に関する業務を総理する立場にあります。副会長は、会長を補佐し、及び会長が不在若しくは事故にあるときは、その職務を代理します。

理事会は、全て理事をもって構成される合議機関です。本会に関する全て事項について協議し、意思決定を行います。なお、理事には、空手道に関する専門的知識及び技能並びに高い見識を有し、かつ本会認定3段位以上であることなどの就任要件が定められています。

監事は、本会の活動内容及び会計について独立した立場から監査します。

2-3. 国際尚礼会事務局

本会には、本会に関する一切の事務を一体的に処理するため、国際尚礼会事務局が設置されています。国際尚礼会事務局は、理事会の決定等に基づき、関係事務を執行しています。



■ 総務企画グループ (General Affairs and Planning Division)

本会の組織運営の基盤を支え、各種会議体の運営、人事、財務、法務といった管理部門としての役割を担うとともに、重要施策の総合調整を行います。

■ 国際政策グループ (International Policy Division)

国際的なネットワークの構築と維持を目的とし、海外の加盟団体との折衝や空手に関する情報収集、海外会員のサポートを担当します。

■ 広報戦略グループ (Public Relations Division)

本会の活動を広く社会に発信するため、広報戦略の立案と実行、デジタルメディアの運用、および報道対応や出版物の制作を行います。

■ DX推進グループ (Digital Strategy Division)

本会業務のデジタル化を牽引し、安全なITインフラの構築と新システムの企画・開発を通じて組織の効率化を図ります。

■ 大会事務局 (Tournament Office)

本会が主催する「国際尚礼会空手道大会」に関する各種事務及び企画運営を所掌します。

03

主要活動報告

本会が今年度を通じて行ってきた主要な活動内容をご紹介します。

3-1. 道場運営事業

本会の加盟道場は国内 5 道場・海外 5 道場の計 10 道場に広がっており、日本・アメリカ・カナダ・オーストラリアの 4 カ国にわたる国際的なネットワークを形成しています。国内では千葉縣市川市の市川道場（本部道場）を中核に、東京都の永福寺道場・有明道場、青森県の青森道場・十和田道場が活動しています。海外においてもアメリカ 3 道場（フロリダ・テキサス・オクラホマ）、カナダのシュスワップ道場、オーストラリアのマンジュラ道場がそれぞれの地域に根ざした稽古を継続しています。

こうした道場ネットワーク拡充の動きの中で、2025 年 8 月には東京都江東区有明に新たな道場を開設しました。首都圏における剛柔流空手道の普及拠点として位置づけられる有明道場は、館長・宜野座繁樹のもと、成人・ジュニアを対象とした日常稽古の場として機能しています。臨海副都心という立地を活かし、空手道未経験者や新規入会希望者との接点としても重要な役割を担っていただけるものと考えています。

各道場では週 2～3 回程度の稽古日を設け、初心者には基本動作をひとつひとつ丁寧に、上級者には応用技術や分解を重点的に指導するなど、習熟度に応じたきめ細かな個別指導を徹底しています。また、技術の向上・研究・普及を目的として定期的に合同講習会を開催しており、各道場の師範が一堂に会して技術的な意見交換を行うとともに、一般の生徒も参加して普段とは異なる師範から直接指導を受けられる機会を設けています。



写真・有明道場・宜野座師範と生徒たち

3-2. 大会競技事業

本会は、2026年3月29日（日）、千葉県市川市に所在する信篤市民体育館において、市川市の後援のもと「国際尚礼会空手道大会 2026」を開催しました。

大会には日本国内のみならずアメリカ・カナダを含む計3カ国から50名を超える門下生が参集し、日頃の稽古の集大成として真剣な演武が繰り広げられました。試合を通じた技術交流にとどまらず、国境を越えた門下生同士の交流も活発に行われ、沖縄空手道剛柔流の伝統の深さと国際的な広がりを感じさせる大会となりました。

本大会は「国際尚礼会」として開催した初の大会であり、発足間もない本会の名を国内外に発信する上でも大きな意義を持ちます。また、開催にあたっては市川市から後援を得たことで、武道団体としての社会的信頼の醸成にも貢献することができたと考えています。

3-3. 国際交流事業

国際尚礼会は、空手道という共通言語を通じて、国境を越えた相互理解と友情を育む国際交流活動を積極的に展開している。年次大会を核とした合同稽古・文化体験イベントに加え、日本の道場生が海外道場を訪問し現地師範の家庭でホームステイする機会も設けており、単なる技術交流を超えた深い異文化理解の機会を提供している。

2025年度は、市川道場から1名が米国フロリダ道場及びカナダ・シュスワップ道場の2拠点の師範宅にホームステイを行った。

3-4. その他の活動

本会は、公式ウェブサイトやInstagramや公式note等のソーシャルメディアを通じた情報発信を継続的に行っており、空手道に関心を持つ層への認知拡大を図っている。また、体験稽古等の新規生徒の受入れについても各道場が積極的に取り組んでいる。

04

今後の展望と戦略

今年度は、国際尚礼会にとって組織基盤を着実に固めた一年であったと言えます。初の「国際尚礼会」名義での公式大会開催、そして情報発信インフラの整備と、矢継ぎ早に重要な施策を打ち出してきました。来年度以降はこれらの取り組みを土台に、「継承・拡大・深化」の三軸で戦略を展開していきます。

4-1. 短期目標（今年度内）

【空手道大会の継続開催と規模拡大】

国際尚礼会空手道大会は、世界各国の門下生が集う年に一度の祭典として位置づけられており、2025年度の2026年大会では3カ国・50名超が参加しました。来年度以降も毎年3月の定期開催を継続しつつ、参加国・参加者数のさらなる拡大を目指していきます。国・地域を超えた技術交流の場としての機能を高めるとともに、行政後援の継続取得など社会的信頼の積み上げも図っていきます。

【指導者育成と審査基準の整備】

本会が国際的な組織として成長するためには、各道場が共通の水準で指導できる体制の構築が不可欠です。指導者育成プログラムの体系化と、段位・審査基準の統一化を引き続き推進し、流派の技術的一貫性を担保していきます。

4-2. 中長期目標

【情報発信・デジタル基盤のさらなる強化】

今年度において本会は、情報発信の基盤整備を積極的に進めてきました。2026年2月には公式ウェブサイト进行全面リニューアルし、沖縄伝統空手の精神性を体現した「和」のデザインを採用するとともに、加盟道場情報や活動内容へ直感的にアクセスできるUIへと刷新しました。ウェブサイトを「世界

中の門下生をつなぐ情報ハブ」と位置づける姿勢は、今後のデジタル戦略の方向性を明確に示している。こうした基盤を活かし、今後もデジタル化の推進による「ITデジタル×伝統空手」を段階的に進めていきます。

【海外道場ネットワークの拡充と公式連携の深化】

現在、アメリカ・カナダ・オーストラリアに計5道場を展開しているが、中長期的にはこれらの道場との関係をより制度的・組織的に強化するとともに、新たな地域への展開も視野に入れていきます。カナダ・シュスワップ道場が地域人気投票でシルバー賞を受賞した事例が示すように、海外道場が各地で地域に根ざした信頼を積み重ねることが、国際尚礼会ブランドの長期的な確立につながります。こうした海外道場の自律的な成長を組織として支援する仕組みを整えることが、今後の重要課題と言えます。

【次世代への継承】

各道場を「人格を磨く教育の場」と位置づけ、年齢・性別・国籍を問わずあらゆる人が集い、礼節と感謝の心を育む場にしていくという本会の理念は、次世代育成の取り組みの根幹にあります。青少年向けプログラムの体系化と指導者の育成を両輪として進め、剛柔流の技術・精神・文化が途絶えることなく受け継がれる仕組みを組織的に整備していきます。

『国際尚礼会統合報告書』 2025 年度版

発 行 日 2026 年 6 月 1 日

編 集 発 行 所 国際尚礼会事務局 広報戦略グループ

発 行 者 二階堂 静男 (会長)

本報告書は、日本国・著作権法により保護されています。無断での複製・転載を固く禁じます。



International Shōrei-kai

Okinawa Karate-do Gōju-ryu International Shōrei-kai